



# ホームディレクトリを管理します。 ONTAP 9

NetApp  
December 20, 2024

# 目次

ホームディレクトリを管理します。 . . . . .	1
ONTAPニオケルドウテキホームディレクトリノシクミ . . . . .	1
ホームディレクトリ共有 . . . . .	2
ホームディレクトリ検索パスを追加する . . . . .	5
%w変数と%d変数を使用してホームディレクトリ設定を作成する . . . . .	6
%u変数を使用してホームディレクトリを設定する . . . . .	8
追加のホームディレクトリ設定 . . . . .	12
検索パスの管理用コマンド . . . . .	12
SMB ユーザのホームディレクトリパスに関する情報を表示します . . . . .	13
ユーザのホームディレクトリへのアクセスを管理します。 . . . . .	13

# ホームディレクトリを管理します。

## ONTAPニオケルドウテキホームディレクトリノシクミ

ONTAP ホームディレクトリを使用すると、SMB 共有を設定し、ユーザと一連の変数に基づいてさまざまなディレクトリにマッピングすることができます。ユーザごとに別個の共有を作成するのではなく、1つの共有を設定し、いくつかのホームディレクトリパラメータを指定して、エントリポイント（共有）とホームディレクトリ（SVM上のディレクトリ）間の関係をユーザ単位で定義します。

ゲストユーザとしてログインしたユーザは、ホームディレクトリを持ちません。また、他のユーザのホームディレクトリにアクセスすることはできません。ユーザとディレクトリのマッピング方法を決定する4つの変数があります。

### • \* 共有名 \*

ユーザの接続先として作成する共有の名前です。この共有にはホームディレクトリのプロパティを設定する必要があります。

共有名には、次の動的な名前を使用できます。

- %w (ユーザのWindowsユーザ名)
- %d (ユーザのWindowsドメイン名)
- %u (ユーザのマッピングされたUNIXユーザ名) すべてのホームディレクトリ間で共有名を一意にするには、共有名にまたは %u` 変数を使用する必要があります /%w`。共有名には変数と/%w` 変数の両方を使用することも (など ` %d/%w)、静的な部分と変数の部分を使用することも (home\_ など /%w) できます %d。

### • \* 共有パス \*

共有によって定義される、つまり、共有名の1つに関連付けられる相対パスです。各検索パスに付加されて、SVMのルートからのユーザのホームディレクトリの完全パスを生成します。静的 (例: )、動的 (例: )、または2つの組み合わせ (例: %w) を eng/%w` 指定できます `home。

### • \* 検索パス \*

SVMのルートからの絶対パスのセットで、ONTAPではこのパスに基づいてホームディレクトリが検索されます。コマンドを使用すると、1つ以上の検索パスを指定できます `vserver cifs home-directory search-path add`。複数の検索パスを指定すると、ONTAPは有効なパスが見つかるまで、指定された順序で検索パスを試行します。

### • \* ディレクトリ \*

ユーザに対して作成する、そのユーザのホームディレクトリです。通常、ディレクトリ名はユーザの名前です。ホームディレクトリは、検索パスで定義されるいずれかのディレクトリに作成する必要があります。

たとえば、次のように設定します。

- ユーザ： John Smith
- ユーザのドメイン： acme
- ユーザ名： jsmith
- SVM 名： vs1
- ホームディレクトリ共有名#1： home\_ %w-共有パス： %w
- ホームディレクトリ共有名#2： %w-共有パス： %d/%w
- 検索パス#1： /vol0home/home
- 検索パス#2： /vol1home/home
- 検索パス#3： /vol2home/home
- ホームディレクトリ： /vol1home/home/jsmith

シナリオ1：ユーザーがに接続し `\\vs1\home\_jsmith` ます。これは最初のホームディレクトリ共有名に一致し、相対パスが生成され `jsmith` ます。ONTAPでは、各検索パスが順にチェックされ、という名前のディレクトリが検索されるようになりまし `jsmith` た。

- `\\vol0home/home/jsmith` は存在しません。検索パス#2に進みます。
- `\\vol1home/home/jsmith` は存在します。したがって、検索パス#3はチェックされません。これで、ユーザは自分のホームディレクトリに接続されました。

シナリオ2：ユーザーがに接続します `\\vs1\jsmith`。これは2番目のホームディレクトリ共有名に一致し、相対パスが生成され `acme/jsmith` ます。ONTAPでは、各検索パスが順にチェックされ、という名前のディレクトリが検索されるようになりまし `acme/jsmith` た。

- `\\vol0home/home/acme/jsmith` は存在しません。検索パス#2に進みます。
- `\\vol1home/home/acme/jsmith` は存在しません。検索パス#3に進みます。
- `\\vol2home/home/acme/jsmith` は存在しません。ホームディレクトリが存在しないため、接続は失敗します。

## ホームディレクトリ共有

### ホームディレクトリ共有を追加する

SMBホームディレクトリ機能を使用する場合は、ホームディレクトリプロパティが設定された共有を少なくとも1つ追加する必要があります。

#### タスクの内容

ホームディレクトリ共有は、共有の作成時にコマンドを使用して作成できます `vserver cifs share create`。既存の共有をホームディレクトリ共有に変更するには、コマンドを使用します `vserver cifs share modify`。

ホームディレクトリ共有を作成するには、共有を作成または変更するときにオプションに値 `-share -properties`` を指定する必要があります ``homedirectory`。共有名と共有パスは変数を使用して指定できます。変数はユーザがホームディレクトリに接続するときに動的に拡張されます。パスに使用できる変数は、`%w`、`%d`、および `%u`` です。それぞれ、Windowsユーザ名、ドメイン、およびマッピングされたUNIXユ

ユーザ名に対応します。

## 手順

1. ホームディレクトリ共有を追加します。`+vserver cifs share create -vserver vservers_name -share-name share_name -path path -share-properties homedirectory[,...]`

`-vserver`vserver``検索パスを追加するCIFS対応のStorage Virtual Machine (SVM) を指定します。

`-share-name share-name``ホームディレクトリ共有名を指定します。

必要な変数の1つに加えて、リテラル文字列 `%u`、または `%d` いずれかが共有名に含まれている場合は `_%w`、リテラル文字列の前に `%` (パーセント) 文字を付けて、ONTAPがリテラル文字列を変数として処理しないようにする必要があります (例: `%%w`)。

- 共有名には変数または `%u` いずれかを使用する必要があります `_%w`。
- 共有名には、さらに変数 (など `%d/%w`) を含めることも、静的な部分 (例: `home1_/%w`) を含めることもできます `%d`。
- 管理者が、他のユーザのホームディレクトリに接続するために、またはユーザが他のユーザのホームディレクトリに接続するのを許可するために共有を使用する場合は、動的な共有名のパターンの先頭にチルダ (`~`) を付ける必要があります。

```
`vserver cifs home-directory  
modify`このアクセスを有効にするには、オプションを `true` に設定する ` -is-home-  
dirs-access-for-admin-enabled` か、アドバンスドオプションをに  
`true` 設定します ` -is-home-dirs-access-for-public-enabled`。
```

`-path`path``ホームディレクトリの相対パスを指定します。

`-share-properties homedirectory[,...]` その共有の共有プロパティを指定します。値を指定する必要があり `homedirectory`` ます。追加の共有プロパティをカンマで区切って指定できます。

1. コマンドを使用して、ホームディレクトリ共有が追加されたことを確認します `vserver cifs share show`。

## 例

次のコマンドは、という名前のホームディレクトリ共有を作成し `%w`` ます。 `oplocks browsable`、および `changenotify`` 共有プロパティは、共有プロパティに加えて設定され `homedirectory`` ます。



この例で表示されているのは、SVM上のすべての共有の出力ではありません。出力は省略されています。

```

cluster1::> vsserver cifs share create -vsserver vs1 -share-name %w -path %w
-share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory

vs1::> vsserver cifs share show -vsserver vs1
Vserver      Share      Path          Properties      Comment      ACL
-----
vs1          %w         %w            oplocks         -            Everyone / Full
Control
                                     browsable
                                     changenotify
                                     homedirectory

```

## 関連情報

[ホームディレクトリ検索パスの追加](#)

[自動ノードリファラルの使用に関する要件とガイドライン](#)

[ユーザのホームディレクトリへのアクセスの管理](#)

## ホームディレクトリ共有での一意なユーザ名の必要性

(Windowsユーザ名) 変数または (UNIXユーザ名) `%u` 変数を使用してホームディレクトリ共有を動的に生成する場合は、一意のユーザ名を割り当てるように注意してください。共有名はユーザ名にマッピングされます。

静的共有の名前とユーザの名前が同じ場合、次の2つの問題が発生する可能性があります。

- ユーザがコマンドを使用してクラスタ上の共有の一覧を表示する ``net view`` と、同じユーザ名の2つの共有が表示されます。
- ユーザがその共有名に接続すると、常に静的共有に接続され、同じ名前のホームディレクトリ共有にはアクセスできません。

たとえば、「administrator」という名前の共有があり、「administrator」という名前の Windows ユーザ名が割り当てられているとします。ホーム・ディレクトリ共有を作成し、その共有に接続すると、「管理者」のホーム・ディレクトリ共有ではなく、「管理者」の静的共有に接続されます。

共有名が重複している問題を解決するには、次のいずれかの手順を実行します。

- 静的共有の名前を変更し、ユーザのホームディレクトリ共有と競合しないようにします。
- ユーザに新しいユーザ名を割り当てて、静的共有名と競合しないようにします。
- パラメータを使用する代わりに、「home」などの静的な名前を使用してCIFSホームディレクトリ共有を作成し、``%w`` 共有名との競合を回避します。

## アップグレード後に静的ホームディレクトリ共有名が受ける影響

ホームディレクトリ共有名には、または `%u` 動的変数のいずれかが含まれている必要が

あります。`%w`。新しい要件がある ONTAP のバージョンにアップグレードしたあとに、既存の静的ホームディレクトリ共有名が受ける影響について理解しておく必要があります。

ホームディレクトリの設定に静的共有名が含まれている場合に ONTAP にアップグレードしても、静的ホームディレクトリ共有名は変更されず、共有も有効なままです。ただし、変数または `%u` を含まない新しいホームディレクトリ共有は作成できません。`%w`。

ユーザのホームディレクトリ共有名にどちらかの変数を含めるという必須条件によって、すべての共有名がホームディレクトリ設定全体で一意であることが保証されます。必要に応じて、静的ホームディレクトリ共有名を変数または `%u` を含む名前に変更できます。`%w`。

## ホームディレクトリ検索パスを追加する

ONTAP SMBホームディレクトリを使用する場合は、ホームディレクトリ検索パスを少なくとも1つ追加する必要があります。

### タスクの内容

ホームディレクトリ検索パスを追加するには、コマンドを使用し `vserver cifs home-directory search-path add` ます。

コマンドは `vserver cifs home-directory search-path add`、コマンドの実行中にオプションで指定されたパスをチェックし `-path`` ます。指定したパスが存在しない場合は、続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。または ``n`` を選択し ``y`` ます。続行する場合は ``y``、ONTAPによって検索パスが作成されます。ただし、ホームディレクトリ設定で検索パスを使用するには、事前にディレクトリ構造を作成しておく必要があります。続行しない場合、コマンドは失敗し、検索パスは作成されません。その後、パスディレクトリ構造を作成してコマンドを再実行できます `vserver cifs home-directory search-path add`。

### 手順

1. ホームディレクトリ検索パスを追加します。 `vserver cifs home-directory search-path add -vserver vs1 -path /home1`
2. コマンドを使用して、検索パスが追加されたことを確認します `vserver cifs home-directory search-path show`。

### 例

次の例は、SVM vs1のホームディレクトリ設定にパスを追加します `/home1`。

```
cluster::> vserver cifs home-directory search-path add -vserver vs1 -path /home1

vs1::> vserver cifs home-directory search-path show
Vserver      Position Path
-----
vs1          1       /home1
```

次の例は、SVM vs1のホームディレクトリ設定にパスを追加することを試みます /home2。パスが存在しません。続行しないことが選択されます。

```
cluster::> vserver cifs home-directory search-path add -vserver vs1 -path
/home2
Warning: The specified path "/home2" does not exist in the namespace
        belonging to Vserver "vs1".
Do you want to continue? {y|n}: n
```

## 関連情報

### ホームディレクトリ共有の追加

## %w変数と%d変数を使用してホームディレクトリ設定を作成する

変数と %d`変数を使用して、ホームディレクトリ設定を作成できます `w。ユーザは、動的に作成された共有を使用してホーム共有に接続できます。

## 手順

1. ユーザのホームディレクトリを含むqtreeを作成します。 `volume qtree create -vserver vserver_name -qtree-path qtree_path`
2. qtreeで正しいセキュリティ形式が使用されていることを確認します。 `volume qtree show`
3. 目的のセキュリティ形式がqtreeで使用されていない場合は、コマンドを使用してセキュリティ形式を変更し `volume qtree security` ます。
4. ホームディレクトリ共有を追加します。 `vserver cifs share create -vserver vserver -share-name %w -path %d/%w -share-properties homedirectory[,...]`  
`-vserver`vserver`` 検索パスを追加するCIFS対応のStorage Virtual Machine (SVM) を指定します。  
`-share-name`%w`` ホームディレクトリ共有名を指定します。ONTAPでは、ユーザがホームディレクトリに接続するたびに、共有名が動的に作成されます。共有名の形式は `_windows_user_name` です。  
`-path`%d/%w`` ホームディレクトリの相対パスを指定します。ユーザがホームディレクトリに接続すると、ユーザごとに `_domain/windows_user_name` の形式で相対パスが動的に作成されます。  
``-share-properties homedirectory[,...]+`` その共有の共有プロパティを指定します。値を指定する必要があり `homedirectory` ます。追加の共有プロパティをカンマで区切って指定できます。
5. コマンドを使用して、共有が目的の設定になっていることを確認します `vserver cifs share show`。
6. ホームディレクトリ検索パスを追加します。 `vserver cifs home-directory search-path add -vserver vserver -path path`  
``-vserver vserver-name`` 検索パスを追加するCIFS対応のSVMを指定します。  
``-path path`` 検索パスの絶対ディレクトリパスを指定します。

7. コマンドを使用して、検索パスが追加されたことを確認します `vserver cifs home-directory search-path show`。
8. ユーザにホームディレクトリがある場合は、ホームディレクトリを含むように指定したqtreeまたはボリューム内に、対応するディレクトリを作成します。

たとえば、というパスのqtreeを作成し、ディレクトリを作成するユーザ名がmydomain\user1である場合は `/vol/vol1/users`、というパスでディレクトリを作成します `/vol/vol1/users/mydomain/user1`。

にマウントされる「home1」という名前のボリュームを作成した場合は、というパスでディレクトリを作成し `/home1`ます` /home1/mydomain/user1`。

9. ドライブをマッピングするか、UNCパスを使用して接続し、ユーザがホーム共有に正常に接続できることを確認します。

たとえば、ユーザmydomain\user1が、SVM vs1上にあるディレクトリ（手順8で作成）に接続する場合は、UNCパスを使用して接続します `\\vs1\user1`。

#### 例

次の例のコマンドは、次の設定を使用してホームディレクトリの設定を作成します。

- 共有名は%wです。
- 相対ホームディレクトリパスは%d/%wです。
- ホームディレクトリを含むように指定した検索パス `/home1``は、NTFSセキュリティ形式が設定されたボリュームです。
- 設定はSVM vs1に作成されます。

ユーザがWindowsホストからホームディレクトリにアクセスする場合は、このようなホームディレクトリ設定を使用できます。また、ユーザがWindowsホストおよびUNIXホストからホームディレクトリにアクセスし、ファイルシステム管理者がWindowsベースのユーザおよびグループを使用してファイルシステムへのアクセスを制御する場合にも、このような設定を使用できます。

```

cluster::> vsriver cifs share create -vsriver vs1 -share-name %w -path
%d/%w -share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory

cluster::> vsriver cifs share show -vsriver vs1 -share-name %w

                Vserver: vs1
                Share: %w
CIFS Server NetBIOS Name: VS1
                Path: %d/%w
    Share Properties: oplocks
                    browsable
                    changenotify
                    homedirectory
    Symlink Properties: enable
    File Mode Creation Mask: -
    Directory Mode Creation Mask: -
        Share Comment: -
            Share ACL: Everyone / Full Control
    File Attribute Cache Lifetime: -
            Volume Name: -
            Offline Files: manual
    Vscan File-Operations Profile: standard

cluster::> vsriver cifs home-directory search-path add -vsriver vs1 -path
/home1

cluster::> vsriver cifs home-directory search-path show
Vserver      Position Path
-----
vs1          1      /home1

```

## 関連情報

[%u変数を使用したホームディレクトリの設定](#)

[追加のホームディレクトリ設定](#)

[SMBユーザのホームディレクトリパスに関する情報の表示](#)

## %u変数を使用してホームディレクトリを設定する

ホームディレクトリ設定を作成し、変数を使用して共有名を指定し、変数を使用して %u`ホームディレクトリ共有の相対パスを指定することができます ` %w。これにより、ユーザは、ホームディレクトリの実際の名前やパスを意識することなく、Windowsユーザ名を使用して動的に作成された共有を使用してホーム共有に接続できます。

## 手順

1. ユーザのホームディレクトリを含むqtreeを作成します。 `volume qtree create -vserver vserver_name -qtree-path qtree_path`
2. qtreeで正しいセキュリティ形式が使用されていることを確認します。 `volume qtree show`
3. 目的のセキュリティ形式がqtreeで使用されていない場合は、コマンドを使用してセキュリティ形式を変更し `volume qtree security`` ます。
4. ホームディレクトリ共有を追加します。 `vserver cifs share create -vserver vserver -share-name %w -path %u -share-properties homedirectory ,...]`

`-vserver`vserver`` 検索パスを追加するCIFS対応のStorage Virtual Machine (SVM) を指定します。

`-share-name`%w`` ホームディレクトリ共有名を指定します。ユーザがホームディレクトリに接続すると、ユーザごとに `_windows_user_name` の形式で共有名が動的に作成されます。



オプションに変数 `-share-name`` を使用することもでき ``%u`` ます。これにより、マッピングされたUNIXユーザ名を使用する相対共有パスが作成されます。

`-path`%u`` ホームディレクトリの相対パスを指定します。ユーザがホームディレクトリに接続すると、ユーザごとに `_mapped_UNIX_user_name` の形式で共有名が動的に作成されます。



このオプションの値には、静的要素も含めることができます。たとえば、 ``eng/%u`` です。

`-share-properties`homedirectory[,...]` その共有の共有プロパティを指定します。値を指定する必要があり ``homedirectory`` ます。追加の共有プロパティをカンマで区切って指定できます。

5. コマンドを使用して、共有が目的の設定になっていることを確認します `vserver cifs share show``。
6. ホームディレクトリ検索パスを追加します。 `vserver cifs home-directory search-path add -vserver vserver -path path`

`-vserver`vserver`` 検索パスを追加するCIFS対応のSVMを指定します。

`-path`path`` 検索パスの絶対ディレクトリパスを指定します。

7. コマンドを使用して、検索パスが追加されたことを確認します `vserver cifs home-directory search-path show``。
8. UNIXユーザが存在しない場合は、コマンドを使用してUNIXユーザを作成し ``vserver services unix-user create`` ます。



ユーザをマッピングする前に、Windowsユーザ名のマッピング先となるUNIXユーザ名が存在している必要があります。

9. 次のコマンドを使用して、UNIXユーザへのWindowsユーザのネームマッピングを作成します。 `vserver name-mapping create -vserver vserver_name -direction win-unix -priority integer -pattern windows_user_name -replacement unix_user_name`



WindowsユーザをUNIXユーザにマッピングするネームマッピングがすでに存在する場合は、マッピング手順を実行する必要はありません。

Windowsユーザ名は対応するUNIXユーザ名にマッピングされます。Windowsユーザは、ホームディレクトリ共有に接続すると、Windowsユーザ名に対応する共有名を使用して動的に作成されたホームディレクトリに接続します。ディレクトリ名がUNIXユーザ名に対応していることは認識されません。

10. ユーザにホームディレクトリがある場合は、ホームディレクトリを含むように指定したqtreeまたはボリューム内に、対応するディレクトリを作成します。

たとえば、というパスのqtreeを作成し、ディレクトリの作成対象となるユーザのマッピングされたUNIXユーザ名が「unixuser1」の場合、`/vol/vol1/users``というパスでディレクトリを作成します  
``/vol/vol1/users/unixuser1。`

にマウントされる「home1」という名前のボリュームを作成した場合は、というパスでディレクトリを作成し  
`/home1`ます` /home1/unixuser1。`

11. ドライブをマッピングするか、UNCパスを使用して接続し、ユーザがホーム共有に正常に接続できることを確認します。

たとえば、UNIXユーザunixuser1にマッピングされるユーザmydomain\user1が、SVM vs1上にあるディレクトリ（手順10で作成）に接続する場合は、UNCパスを使用して接続し  
`\\vs1\user1`ます。`

#### 例

次の例のコマンドは、次の設定を使用してホームディレクトリの設定を作成します。

- 共有名は%wです。
- 相対ホームディレクトリパスは%uです。
- ホームディレクトリを含むように指定した検索パス`/home1`は、UNIXセキュリティ形式が設定されたボリュームです。
- 設定はSVM vs1に作成されます。

ユーザがWindowsホスト、またはWindowsホストとUNIXホストの両方からホームディレクトリにアクセスし、ファイルシステム管理者がUNIXベースのユーザおよびグループを使用してファイルシステムへのアクセスを制御する場合は、このようなホームディレクトリ設定を使用できます。

```

cluster::> vserver cifs share create -vserver vs1 -share-name %w -path %u
-share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory

cluster::> vserver cifs share show -vserver vs1 -share-name %u

          Vserver: vs1
          Share: %w
CIFS Server NetBIOS Name: VS1
          Path: %u
    Share Properties: oplocks
                     browsable
                     changenotify
                     homedirectory
    Symlink Properties: enable
    File Mode Creation Mask: -
    Directory Mode Creation Mask: -
          Share Comment: -
          Share ACL: Everyone / Full Control
File Attribute Cache Lifetime: -
          Volume Name: -
          Offline Files: manual
Vscan File-Operations Profile: standard

cluster::> vserver cifs home-directory search-path add -vserver vs1 -path
/home1

cluster::> vserver cifs home-directory search-path show -vserver vs1
Vserver      Position Path
-----
vs1          1      /home1

cluster::> vserver name-mapping create -vserver vs1 -direction win-unix
-position 5 -pattern user1 -replacement unixuser1

cluster::> vserver name-mapping show -pattern user1
Vserver      Direction Position
-----
vs1          win-unix 5      Pattern: user1
                               Replacement: unixuser1

```

## 関連情報

[%w変数と%d変数を使用したホームディレクトリ設定の作成](#)

[追加のホームディレクトリ設定](#)

## 追加のホームディレクトリ設定

、 %d` の ` %u` 各変数を使用して追加のホームディレクトリの設定を作成し、ニーズに合わせてホームディレクトリの設定をカスタマイズできます ` %w。

共有名と検索パスで変数と静的文字列の組み合わせを使用して、多数のホームディレクトリの設定を作成できます。次の表に、さまざまなホームディレクトリ設定を作成する例を示します。

がホームディレクトリを含む場合に作成されるパス /vol1/user	share コマンド
ユーザをに転送する /vol1/user/win_username` 共有パスを作成するには `\\vs1\~win_username	<code>vserver cifs share create -share-name ~%w -path %w -share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory</code>
ユーザをに転送する /vol1/user/domain/win_username`共有パスを作成するには `\\vs1\win_username	<code>vserver cifs share create -share-name %w -path %d/%w -share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory</code>
ユーザをに転送する /vol1/user/unix_username`共有パスを作成するには `\\vs1\win_username	<code>vserver cifs share create -share-name %w -path %u -share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory</code>
ユーザをに転送する /vol1/user/unix_username`共有パスを作成するには `\\vs1\unix_username	<code>vserver cifs share create -share-name %u -path %u -share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory</code>

## 検索パスの管理用コマンド

ONTAPには、SMBホームディレクトリ設定の検索パスを管理するためのコマンドが用意されています。たとえば、検索パスを追加、削除、および情報を表示するためのコマンドが用意されています。また、検索パスの順序を変更するためのコマンドもあります。

状況	使用するコマンド
検索パスを追加する	<code>vserver cifs home-directory search-path add</code>
検索パスを表示します。	<code>vserver cifs home-directory search-path show</code>

状況	使用するコマンド
検索パスの順序を変更する	<code>vserver cifs home-directory search-path reorder</code>
検索パスを削除する	<code>vserver cifs home-directory search-path remove</code>

詳細については、各コマンドのマニュアルページを参照してください。

## SMB ユーザのホームディレクトリパスに関する情報を表示します

Storage Virtual Machine (SVM) 上のSMBユーザのホームディレクトリパスを表示できます。このパスは、複数のCIFSホームディレクトリパスが設定されていて、ユーザのホームディレクトリがあるパスを確認する場合に使用できます。

### ステップ

1. コマンドを使用して、ホームディレクトリパスを表示します `vserver cifs home-directory show-user`。

```
vserver cifs home-directory show-user -vserver vs1 -username user1
```

Vserver	User	Home Dir Path
vs1	user1	/home/user1

### 関連情報

[ユーザのホームディレクトリへのアクセスの管理](#)

## ユーザのホームディレクトリへのアクセスを管理します。

デフォルトでは、ユーザのホームディレクトリにアクセスできるのはそのユーザだけです。動的な共有名の前にチルダ（ {チルダ} ）が付いている共有の場合、Windows 管理者や他のユーザ（パブリックアクセス）によるユーザのホームディレクトリへのアクセスを有効または無効にできます。

### 開始する前に

Storage Virtual Machine (SVM) のホームディレクトリ共有に、動的な共有名の前にチルダ（ {チルダ} ）を追加した共有名を設定する必要があります。共有の命名要件を次に示します。

ホームディレクトリ共有名	共有に接続するコマンドの例
{チルダ} %d {チルダ} %w	net use * \\IPAddress\~domain~user/u:credentials
{チルダ} %w	net use * \\IPAddress\~user/u:credentials
{チルダ} abc {チルダ} %w	net use * \\IPAddress\abc~user/u:credentials

## ステップ

1. 適切な操作を実行します。

ユーザのホームディレクトリへのアクセスを有効または無効にする対象	入力するコマンド
Windows管理者	vserver cifs home-directory modify -vserver vserver_name -is-home-dirs -access-for-admin-enabled {true false} `デフォルトはです `true。
任意のユーザ (パブリックアクセス)	<ol style="list-style-type: none"> <li>a. 権限レベルをadvancedに設定します。+ set -privilege advanced</li> <li>b. アクセスを有効または無効にします。`vserver cifs home-directory modify -vserver vserver_name -is-home-dirs-access-for-public-enabled {true</li> </ol>

次の例は、ユーザのホームディレクトリへのパブリックアクセスを有効にします。set -privilege advanced vserver cifs home-directory modify -vserver vs1 -is-home-dirs-access-for-public-enabled true++set -privilege admin

## 関連情報

[SMBユーザのホームディレクトリパスに関する情報の表示](#)

## 著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。